

免疫介在性ニューロパチーおよび筋萎縮性側索硬化症の患者様の中で、平成 25 年 2 月 25 日から平成 27 年 3 月 31 日の期間に当院神経内科で、採血・血液検査、髄液検査を受けられた方へ

【研究タイトル】免疫介在性ニューロパチーの病態解明に関する研究

1. 本研究の意義および目的

多巣性運動ニューロパチー (Multifocal motor neuropathy: MMN) の患者様の一部では末梢神経の構成成分に対する自己抗体 (IgM 抗 GM1 抗体などの抗グングリオシド抗体) が作られ、その発症に自己免疫学的な機序が関与していると言われています。MMN では、免疫グロブリン大量静注療法 (IVIg) によって一定の効果は得られるものの、慢性進行性の経過をたどる例が存在します。また同じく、運動神経が障害される筋萎縮性側索硬化症の病初期と見分けることが難しい例も存在します。一方で、ギランバレー症候群 (Guillain-Barre syndrome : GBS) も末梢神経成分に対する自己抗体によって引き起こされる免疫介在性ニューロパチーですが、通常一過性の経過をたどり、IVIg によって回復する例がほとんどです。このことから、ともに末梢神経成分 (グングリオシド) に対する抗体の産生がおこるものの、何らかの免疫応答の違いが存在すると考えられます。本研究は MMN や MMN に類似した疾患の検体を解析することにより、免疫介在性ニューロパチーの病態解明を目指しています。

2. 研究の方法

まず診療情報より情報 (発症年齢、性別、経過、身体所見、治療内容) を収集させていただきます。また患者様の状態を把握した上で、患者様から研究用採血を追加でさせていただきます、リンパ球や血清の保管を行います。また、髄液穿刺の際に残った髄液を保管します。これらの検体を用い、グングリオシド抗体の検索、サイトカインの測定、血液神経関門に対する影響、リンパ球の表面マーカーを調べます。研究の内容により、近畿大学神経内科、静岡てんかん神経医療センター、山口大学神経内科、徳島大学神経内科にて解析を行います。

3. 試料等の保存および使用方法について

血清、髄液、リンパ球をナンバリングの上、神経内科の冷凍庫にて凍結保存します。その後、保管した検体を用いて解析を行います。

4. 研究全体の期間と予定症例数

研究期間は平成25年2月25日から平成27年3月31日までです。健常者15例、多巣性運動ニューロパチー20例、ギランバレー症候群20例、筋萎縮性側索硬化症15例を予定しています。

5. 研究結果の公表について

研究の成果は、提供者本人やその家族の氏名などが明らかにならないようにした上で、学会発表や学術雑誌およびデータベース上で公に発表させていただきます。

6. 個人情報に関して

第3者が個人情報を閲覧することができないようにしております。また、本研究の実施過程及びその結果の公表（学会や論文等）の際には、患者さんを特定できる情報はいっさい含まれません。

7. 本研究への参加を拒否する場合

この研究への参加は自由です。同意しなくてもあなたの不利益になるようなことはありません。参加を拒否される場合には下記連絡先までご連絡ください。

8. 研究機関、研究責任者および研究者

【研究機関】 徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部

【研究責任者】 臨床神経科学分野(神経内科) 梶 龍児

【研究者】 臨床神経科学分野(神経内科) 松井 尚子

9. 連絡先

電話番号 088-633-7207

FAX 番号 088-633-7208